別紙様式２－２

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
（次期学習指導要領に向けた実践研究）」
成果報告書

受託団体名	国立大学法人　熊本大学

Ⅰ　概要

１　モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがな）
国立大学法人 熊本大学	特別支援学校	知的障がい	熊本大学教育学部附属特別支援学校 （くまもとだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう）

２　研究課題

次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント
～熊大式マネジメントシステムの構築～

３　研究の概要

次期学習指導要領を見据え、社会に開かれた教育課程の理念の基、未来を拓く資質能力を育成する教育課程の開発に向けた、授業改善を軸としたカリキュラム・マネジメントを実施していくために、３ヶ年計画で以下の３つの取組について研究を行う。

取組①　カリキュラムの充実

本校のこれまでの実践をベースとして、子どもの学びを教育課程へと反映できるようなマネジメントシステムとして整理・再構築し、教育課程のＰＤＣＡサイクルを確立する。

取組②　主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業開発及び改善

授業において目指す姿を明らかにし（具体的な目標設定）、主体的・対話的な学び（自ら考え、内面の働きが活性化する授業）を目指した授業づくりを行っていくことで、子どもたちの深い学びにつなげるとともに、日々の授業を評価し、日々改善を図っていく。また、評価の観点や授業づくりにおけるポイントについて明らかにすることで、研究の成果を普及していく。

取組③　地域社会との連携・協働

教育・労働・福祉・医療等における情報収集及び意見交換、ツール等の共同開発など協働した取組を行い、教育課程や授業等の改善に生かす。また、授業や研修会等において、地域の人的・物的資源を活用するとともに本校の知見を地域社会に発信する。

なお、第３年次には、①、②、③の取組を相互に関連付けながら卒業後を見据えた学びをつなぐ教育課程を編成し、実践を行い、本研究の有効性を検証する。

４　研究の成果

取組①　カリキュラムの充実

教育課程改善のための内容や体制等について課題を整理し、これまでの単元や授業の計画・評価シートの様式の見直しを行い、計画や評価の検討内容を明確にすることができた。また、本時の授業について評価を行う時間を設定したことで、日々の授業改善を行うことができた。さらに、児童生徒の学びをつなぐため、個別の指導計画や通知表において、これまで指導形態毎に目標設定および評価を行っていたが、課題があったため、各教科毎に目標設定と評価を実施できるようにした。

取組②　主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業開発及び改善

熊本大学教育学部の教科学科教員と共同研究を行い、教科の特質を考えた授業づくりに取り組んだ。研究実践を進めながら、計画や実践において主体的・対話的で深い学びの実現のために重要と考えられるポイントを出し合い、主体的・対話的で深い学びの学習過程イメージ図を作成し、職員間の共通認識を図り、授業づくりに生かすことができた。

取組③　地域社会との連携・協働

福祉・労働等関係者からなる「附特就職支援ネットワーク会議」において本校の教育や研究等に関する意見交換及び情報交換等を行うとともに、ネットワーク委員と協働して支援ツールの開発やセミナーの共同開催、研修会などでのアンケートや質問等から地域のニーズ等を把握することができた。また、本校就職支援コーディネーターが中心となり、地域の高等学校への就労支援等を行う中で、就労のためのアセスメントの重要性を確認できた。

５　課題と今後の方策

カリキュラム・マネジメント実現のためには、評価と改善のつながりを明確にし、実施する必要がある。日々の授業について評価及び授業改善を行うことができたが、単元の評価については、内容や時間確保など検討が必要である。平成30年度は、評価をいつ、だれが、どのような内容で実施するのかを整理し、評価システムを確立させ、熊大式マネジメントシステムとして構築する。また、個別の指導計画や授業における目標設定において内容や表現など職員間のばらつきがあるため、指導と評価の一体化の視点と全職員が関わるカリキュラム・マネジメントの視点から資質・能力の三つの柱に基づく目標の立て方について明確にし、共有していく。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりにおいては、学びを深いものにするためには、単元計画段階、授業計画段階、実際の指導場面でそれぞれに重点化すべきポイントがあることが分かったため、今後は、平成29年度の実践を踏まえ、研究実践において、効果の高かったポイント等について整理を行い、授業づくりポイント一覧の作成を目指す。

地域資源の連携・協働においては、地域資源を活用した授業実践はこれまでも行ってきているが、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現の視点からの検討が十分にできているとは言えず、今後は、深い学びにつなげるために内容や方法等について、授業づくりポイント一覧に関連させながら計画・実践・評価を行うとともに、地域の実情やニーズ等を踏まえた授業改善や教育課程改善につなげる。